

《原 著》

Cohn I 型の無症候性心筋虚血における冠攣縮の検出

¹²³I-BMIPP 心筋 SPECT を用いて

川崎 達也* 伊藤 一貴* 岡野 晃* 永田 一洋*
米山 聡嗣* 杉原 洋樹** 加藤 周司*

* 朝日大学附属村上記念病院循環器内科

** 京都府立医科大学放射線科

要旨 冠攣縮による Cohn I 型の無症候性心筋虚血 (SMI) の検出において, ¹²³I-BMIPP 心筋 SPECT の有用性を検討した。検診で心電図異常を指摘され, エルゴノピン負荷で冠攣縮を認めた Cohn I 型の SMI 症例 8 例を対象とした。断層心エコー図, ホルター心電図, 運動負荷 ²⁰¹Tl および安静時 BMIPP 心筋 SPECT を施行した。各々の感受性は, 断層心エコー図: 37.5%, ホルター心電図: 37.5%, 運動負荷 Tl: 25.0%, BMIPP 初期像: 62.5%, 後期像: 75.0% であった。断層心エコー図の壁運動異常の程度と, BMIPP 初期像および後期像の集積低下の程度との間には, 正の相関が認められた。BMIPP の洗い出し率は, 正常群: $18.7 \pm 2.4\%$, SMI 群: $32.4 \pm 5.9\%$, SMI 群の中で壁運動異常を認めた群: $38.2 \pm 4.0\%$ であった。¹²³I-BMIPP 心筋 SPECT は冠攣縮が関与する Cohn I 型の無症候性心筋虚血の検出に有用であることが示唆された。

(核医学 36: 45-50, 1999)